



■ 都草講演会：真田紐の歴史と秘密 「京に生きづく手しごと」より



谷川清三会長



和田伊三男氏

1月19日の都草講演会は、最初に京都市伝統工芸連絡懇話会の谷川清三会長に「京に生きづく手しごと」についてご挨拶をいただきました。現在京都市が認定している伝統産業＝伝統工芸品は74品目あり、その内26品目の業種で構成されている会です。今回はそのメンバーのひとり真田紐師 江南（えなみ）15代の和田伊三男氏から講演をいただきました。

第一部のテーマは「日本の紐文化－撚紐（よりひも）・組紐・真田紐を使用する階級・使い方・意味合い－」日本は数多くの種類の紐がある世界でも珍しい国だそうです。大きく分けると撚紐・組紐・真田紐の三種類となります。撚紐は二本の束を同じ方向にねじって作られました。組紐は仏教とともに中国より、主に宮中に伝わりました。作成方法により丸組紐と平組紐があり、陰陽道にも使われました。

真田紐はネパールの「サナール」がフィリピン・ルソン経由で関西に入りました。縦糸の本数が多く、非常に丈夫で切れにくいことから幅広く使用されるようになったそうです。

第二部のテーマは「真田紐の歴史と秘密（茶道・武道の約束紐・習慣紐）」で、各流儀・作家等で決められた柄、色、結び方等に意味・役割・秘密がある、ということの具体例をスライドに示して説明いただきました。

和田氏が時代考証されたNHK大河ドラマ「真田丸」や映画「真田十勇士」での真田紐を担当されたエピソードもお話いただき、これから時代劇を見る楽しみが増えました。ステージ上の展示や真田紐が武器になるという実演もあって、盛り上がった講演会となりました。（理事 相場 まり子）

■ 文化交流部会 茶歌舞伎を楽しむ



福寿園本店で催された「茶歌舞伎を楽しむ」に参加しました。日本茶インストラクターの伊藤明子さんから歴史やルール、見分け方のポイントの説明がありました。競技は玉露・かぶせ茶・煎茶を各々「花」「鳥」「風」の札にし、参加者は少量のお茶を順次飲み、飲んだお茶の種類の札を投札箱に入れます。「今日は歴史文化に詳しい都草の方々ですので難易度を上げました」と言われました。正月の子供茶歌舞伎では玄米茶が使われましたが、今回の競技はかぶせ茶で沸騰したお湯を用いて淹れる等の味や色では判りにくい工夫がされているとの事でした。決定的なヒントは玉露の海苔のような香で判ると

のことでした、が小生は鼻炎持ちで…。

全問正解を「皆点（カイトン）」逆の場合を「チョット」と呼びます。競技は2回行い正答数を競います。最初に玉露が出されましたが、間違えました。以前飲んだ水出しの玉露の味とは違うと感じました。1回戦は皆点は一人居てでしたが、2回戦は味・色・香を覚えたのか5名が皆点になりました。両方皆点の方がおらず、福寿園さんが用意された豪華商品は、両方がチョットだった二人に伊藤さんの粋な計らいで贈られました。催しの後に玉屋正兵衛作のからくり人形「茶運び人形」の実演も拝見し、今回の茶歌舞伎の会は少々スリルが有りましたが楽しかったです。次の機会を楽しみにしております。（会員 疋田 明）

■ 京都検定試験 10 回合格の感想



京都検定試験の始まった平成 16 年（2004）は、昭和 15 年（1940）生まれの私が定年まもない時期でした。京都に住みながら京都の歴史や史跡・寺社などに興味がなかった自分に気付き、定年後の過ごし方の助けになるのではと第 1 回の 2 級を受験し合格、勢いで第 2 回の 1 級の試験も合格。料亭・瓢箪での祝宴には坂本前理事長、桜井（英）、林、住、西野、高橋（克）さんらがおられました。直後に創設された都草に入会。歴史探訪会や京都検定対策委員会などに参加して、新しい発見を求めて楽しい街歩きを経験、京都に関する多くの知識を得ることができました。

第 13 回の検定試験から京都に関する知識を権威付けるマイスター制度が始まり再び受験することにしました。マイスターバッジのスワロフスキー・クリスタルの数が合格回数を表すとのことで 2 つでは寂しいので 3、4 つと続けることで 9 回連続合格し、あわせて 10 回となり、ここまでは 20 年かかっています。毎年、晩秋から 12 月初旬にかけては飲酒を控えて勉強し、十代の頃の大学受験を続けているような緊張感がありました。今回達成できたのは、定年後の 20 余年の間、都草の色々な活動に参加させていただき京都を学んだ結果です。そのような場を提供してくださった都草の皆様に深く感謝しています。（会員 俊藤 靖）

■ 京都府庁旧本館と府立植物園の動画を公開



映像プロジェクトでは、昨年 12 月に京都府庁旧本館、今年 3 月に京都府立植物園の動画を YouTube で公開しました。昨年は府庁旧本館が竣工 120 年、植物園が開園 100 年とそれぞれ節目の年にあたり、題材として取り上げたものです。

府庁旧本館は明治 37 年（1904）に竣工した、レンガ造りの洋館です。100 年目の平成 16 年（2004）に、建物全体が国の重要文化財に指定されました。現役の庁舎としては国内で一番古い建物で、2 階には都草の事務所があります。無料で一般公開している旧知事室、正庁、旧議場は都草の会員がご案内しています。いつも見学者に説明している内容を映像化したものが多いのですが、撮影してみて、改めて室内外の装飾のすばらしさに気づかれます。

府立植物園は大正 13 年（1924）に開園、24 ヘクタールの広大な敷地に、1 万 2 千品種、約 12 万本の植物が植えられています。また、3 代目となる国内最大級の温室には、世界の珍しい植物が数多く展示されています。今は府民の憩いの場として親しまれていますが、終戦後の昭和 21 年（1946）から 12 年間連合軍に接収され、園内が住宅地にされるなど、苦難を乗り越えてきた歴史があります。そういった歴史と合わせ、植物園の美しい四季の移ろいをご紹介します。

今回は、ともにドローンの空撮をしています。都草会員の知り合いの方の紹介で、ドローン教室を開いている専門家に協力していただきました。普段はなかなか見ることができない角度からの映像もありますので、ぜひご覧ください。（副理事長 須田信夫）